

まだまだある！ 田んぼの「すごい！」

田んぼが持つ多面的な機能を発揮するため、田んぼの「すごい！」に一所懸命に取り組んでいる皆さんに、お話を聞いてきました。

観光・プロモーション がすごい！



毎年田んぼアートの見頃になると、東埼玉資源環境組合第一工場(リユース)展望台には市内外からたくさんの方が訪れます。展望台の高さは、なんと約80m。展望台から図柄がきれいに見えるように、遠近法を用いて緻密にデザインし測量しているんだとか。



(一社)越谷市観光協会
常務理事 中村将義さん

田んぼアートは一般的には地域活性化や農業振興などが期待されていますが、観光振興にもつながっています。毎年、市内外から1万5,000人を超える来場者があり、越谷市を代表する観光資源のひとつになっています。

毎年話題になるように図柄を考えています。これまで反響が大きかったのは、アニメ作品「銀河鉄道999」の図柄です。その年の来場者数は1万8,000人を超えました。今年の図柄の「小林さんちのメイドラゴン」にも期待しているんです。人気作品とのコラボは、作品のファンの皆さんがSNS等で発信してくれるので影響力が大きいんです。

今年の田植えも300人以上の皆さんに参加していただきました。遠くは福島から、また近隣都県からも多くの方にお越しいただいたんですよ。

地産地消への取り組み がすごい！



地元の生産農家で栽培された旬の農産物や農産物の加工品を販売しているグリーン・マルシェ。市内の田んぼで生産された「彩のきずな」、「越谷産コシヒカリ」、「越谷ふるさと米」を取り扱う農産物直売所として、生産者と消費者を直接結び付け、安全・安心でおいしい食を提供しています。

地元で作られているお米を市内や近郊の消費者の皆さんに販売しています。市内の小・中学校の給食には、「彩のきずな」が使われているんです。また、「越谷ふるさと米」は、市内の公立保育所の給食やおやつとして提供されています。こしがや愛されグルメの「純米清酒越ヶ谷宿」や「虹だんご」にも、越谷産のお米が使われているんですよ。

グリーン・マルシェでは、約110の生産農家さんから仕入れたお米や新鮮な野菜がお店に並んでいます。地域の皆さんをはじめ、地元の飲食店の方も買いに来てくれています。農家の後継者問題、米の価格高騰など課題はありますが、地域の農業を盛り上げたい、農家さんの力になりたいという想いを大切にしています。



グリーン・マルシェ
おつかとしがず
店長 大塚聡一さん

田んぼの生きものがすごい！



NPO法人オリザネットは、農と自然を大切に人と生き物が共生できる持続可能な社会を目指す特定非営利活動法人。平方自然観察林の保全調査や水辺の生きもの調査の支援活動などを行っています。6月に開催された北川崎自然保全会の生きもの調査には70人が参加し、地域の子どもたちが身近な自然とふれあいました。



NPO法人オリザネット
事務局長 古谷愛子さん

越谷市は古くから「水郷こしがや」と呼ばれてきました。田んぼは、自然、歴史、文化などの大切な基盤なんだと思います。私も、こどもの頃田んぼで生きものを捕まえたとか、あぜ道で遊んだとか、楽しい思い出がたくさんあります。お祭りにいくときに蛸が飛んでいた時代もありました。

田んぼには、たくさんの生きものがすんでいて、日本の田んぼには5,668種類いると言われてます。越谷市の田んぼにも、ニホンアマガエル、ホウネンエビ、カブトエビ、ドジョウ、ハイロゲンゴロウ、コガムシなどたくさんいるんですよ。田んぼは、地域の自然環境をはじめ、私たちの暮らしを支えてくれているんだということを感じてもらえたらうれしいですね。

スマート田んぼダム がすごい！



越谷市、(株)ニイザカファーム、NTT東日本(株)は、4月に「スマート田んぼダムによる地域防災力強化及び持続可能な農業推進に関する連携協定」を締結しました。田んぼが持つ雨水貯留機能とICT・自動化技術を組み合わせた新たな取り組みが、営農を継続しながら地域の課題を解決する手法として注目されています。

スマート田んぼダムを導入してから、日々の農作業の負担が軽減されました。スマホ1つで田んぼの水位や水温の確認、遠隔操作で給水ゲートの開閉ができるんです。実際に田んぼまで行く回数が減るので、農作業が効率的になりました。高齢で田んぼの管理が難しいという方にとっても便利だと思います。

越谷市は、水害に悩まされてきた地域です。近年では、集中豪雨や台風によるリスクも高くなっています。田んぼに水をためることで、周辺や下流域への水害の被害を減らすことができます。農作業の負担軽減だけでなく、地域の防災・減災にも貢献できるって、とてもいいことですよ。



(株)ニイザカファーム
代表取締役 新坂真之さん